

発議案第24号

少人数学級の実現を求める意見書について

上記の発議案を別紙のとおり地方自治法第99条及び会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和2年9月15日

八千代市議会議長 木下映実様

提出者	八千代市議会議員	伊原忠
賛成者	八千代市議会議員	植田進
	同	堀口明子
	同	飯川英樹
	同	三田登

## 提案理由

国に対し、少人数学級の実現を強く求める。

これが、本案を提出する理由である。

## 少人数学級の実現を求める意見書

本年5月25日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除され、6月1日から全国のほとんどの小・中学校等が再開された。長期の休校による子供の学習の遅れと格差の拡大、不安とストレスは深刻な状況である。新型コロナウイルス感染症から子供と教職員の健康と命をいかにして守っていくかは重要な課題である。

また、学校現場では、感染防止の3つの基本の1つである「身体的距離の確保」ができないという重大な問題に直面している。当時の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議は、「新しい生活様式」として、「身体的距離の確保」を呼び掛け、人との間隔はできるだけ2メートル空けることを基本としていたが、現在の40人学級では1メートル空けることすら困難である。

学校現場からは、「教員の増員や少人数学級への移行が可能となれば、一人一人の児童に丁寧な指導ができるようになる」、「30人学級にしてほしい」などの声が寄せられている。

さらに、全国知事会は本年7月2日付けで、全国市長会、全国町村会と連名で「新しい時代の学びの環境整備に向けた緊急提言」を公表し、子供たちの学びを保障するには、「少人数学級により児童・生徒間の十分な距離を保つことができるよう教員の確保が是非とも必要」と強調しており、少人数編制を可能とする教員の確保など、学校教育環境の整備を求めている。

子供たちの学びを保障するためにも、少人数学級の実現に向けて抜本的整備が必要である。

よって、本市議会は国に対し、少人数学級の実現を強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年9月28日

八千代市議会

提出先

内閣総理大臣様

文部科学大臣様